

LIFE MANAGEMENT



ー クラブライフが心とからだと暮らしを変える ー

「元気なとやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。

日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

巻頭インタビュー Interview

誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境をつくろうと、県内では約50の「総合型地域スポーツクラブ」が活動している。設立状況は全国トップクラスで、今後、各クラブの成長と発展に期待がかかる。スポーツビジネスのマーケティングに詳しい坂口淳氏にインタビューし、クラブ運営成功のヒントを探った。

『質の高いプロダクト提供を』

R-body project

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-3-14 ASAX広尾ビル2階
TEL 03-5447-1122 FAX 03-5447-1126

URL <http://www.r-body.com>

取締役 坂 口 淳

1991 順天堂大学 大学院修了

1991-2003 東京急行電車 入社

同社沿線でのスポーツ施設の計画・開発・運営業務に携わる。

渋谷・東急百貨店東横店屋上での

「アディダス フットボールパーク渋谷」など、フットサルサッカースクール部門の開発運営を多く手がける。

■ どんな意識でクラブ経営に臨むべきか

多くのクラブにとって「財政的な自立」が大きな目標になっている。しかし、「収支をトントンにさえすればよい」とは思わない。『予算が乏しい→プロダクト(商品・サービス)が貧弱→低い価格設定→収益が上がらない』という「縮小均衡」に落ち着くと、結局たいしたことはできない。やりたいことができないし、クラブ設立の理念を実現するのは難しいだろう。プロダクトの質を高め、見合った価格で提供してほしい。「高いか、安いか」はサービスの品質によって決まる。まずは、しっかりした中身が大切だ。マネジメント力も重要だが、その先に求められるプロダクト充実のためのテクニカルな部分を向上させる意識を持ってほしい。

■ 東京で新形態のアスレチックジム「R-body project」を経営している。

起業に際して考えたポイントは?

一般の人が健康を維持するための方法と知識を、米国公認トレーナーが提供している。

体調不良からの回復にトレーニングを活用するという



R-body project
DIRECTOR
SAKAGUCHI

提案は新しかった。しかし、「マッサージにお金を払っている人」なら、わたしたちの顧客にできると考えた。市場はあるので、効果を理解してもらうための伝える作業が、事業の成否を握ると思った。

成功できるとの感触はあったが、共同経営者たちを納得させるプロセスが必要だった。楽天的な人もいれば、慎重な人もいる。説得のなかでビジネスプランが磨かれた。

■ 都会に比べて市場の小さい地方は、スポーツビジネスにとって不利でしょうか?

人口数は違っても、余暇活動に使う世帯当たりの金額と時間は、東京と富山でそう変わりはない。「方が不利」と考えるのには思い込みが少なからずあるだろう。わたしのジムの会員は約350人。サービスに納得して料金を払ってくれる人が、ある程度いれば事業は成り立つ。トレンドである「少量多品種」の行き着く先はオーダーメードで、サービスの究極の形は「1対1」。最終的に「ひと」対「ひと」の関係が重要になるのは、どこで事業を行っていても同じだ。



TSCは昨年9月、「岩瀬スポーツ公園パックアップ事業」として、スポーツターフ講習会を開催した。観るだけの芝から、スポーツ施設の魅力となりうる「使える芝」にはどうしたらできるのか、また何故スポーツマネジメントに必要なのか、を多くの方に認識していただきため、企画提案した。今回多くの造園業者の方々に参加していただき実現することができた。参加者の感想である。

スポーツターフ講習会に参加して

株福田園 橋本 匡史

主催：(株)富山・スポーツパーク・マネジメント
協力：NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ
期日：平成18年9月29日(金)14:00～18:00
：平成18年9月30日(土) 9:00～12:00
場所：富山県総合体育センター・富山県岩瀬スポーツ公園
講師：(社)塩竈フットボールクラブ理事長
日本クラブユースサッカー連盟理事 小幡忠義氏
(財)日本サッカー協会
2002日韓ワールドカップ施設最高責任者 松本栄一氏

私たち植物や緑化に携わる人間は、健全な芝が密に育ち、全面がツヤのある緑一色な芝生広場を理想とし

維持しようとしています。それは主に三つの視点が柱になっています。一つは芝の生理的な対応。二つめは均一に刈り揃えられた綺麗な見た目。三つ目は使用者が気持ちよく楽しめるような空間を作ることです。簡単に言うと、雑草が少なく病害虫に犯されないよう管理する事や、刈り芝の方向を揃える事(ゼブラカットと呼ばれる)や、ケガをしないよう土壤の硬化を抑える事などがあげられます。

このような管理の専門知識は数多く必要になりますが、特に競技をする立場からの意見・知識は知らない事が多く、この講習会は大変勉強になったと思います。『芝生の丈が1cm違うと蹴ったボールの角度やカーブの度合いが変わってくる』『排水の良否で雨天時の影響がかなり違う』等。これらのが好プレーや落胆プレーにつながるから、私たちの責任は大きいと改めて思います。

芝生グラウンドの管理は、プレイヤーの技術・気持ち

を応援するような思いで、また一つ一つの作業の意味を認識しつつ進めていくことが大切だと感じました。

また、技術的なことだけではなく、“コミュニティ”についてもお話を伺いました。ある町では子供たちの芝生広場を作るため、たくさんのボランティアの協力で広場ができ、維持するためにも人が集まり地域ぐるみで盛り上がりを見せているというお話です。使用者、管理者、地域や自治体との協力が不可欠で、お互いが応援し合える仕組みが必要であろうと思います。たくさん的人が訪れる事は、思い出やふれあいの場としても価値があります。つまり、間接的な関係も含め、私たちが関わる環境づくりでスポーツの発展に協力できるという楽しみがあると思いました。

2日間の講習は、大変有意義なものでした。今後の動きに役立てていきたいと思います。講師の方々、スタッフの方々に感謝いたします。ありがとうございました。

TSCの会員コースである「サッカーを知ろう!ルール・戦術を観戦ナビから」の一環で昨年は3回Jリーグ観戦ツアーが開催されました。コース会員は毎回チケット代が無料となる特典があります。

Jリーグ観戦ナビゲーションに参加して

正会員：稻原さん

第一回 7/19 新潟-浦和 ビックスワン
(現東北電力ビックスワン)
第二回 8/23 浦和-新潟 埼玉スタジアム
第三回 11/11 浦和-横浜 埼玉スタジアム



動するばかりでした。テレビではテレビなりの良い所があると思いますが、実際見なければスタジアムの雰囲気は感じ取れず、お茶の間では感じとれない感動を味わいました。

昨年、観戦参加できなかった皆さん、今年、ツアーがあったら是非一度観戦してみて下さい。きっと日常では味わえない感動に浸れると思います。以下は子供の感想です。

「僕は、初めてJリーグの試合を見ました。バスに長い間乗っているのは大変だったけど、試合を観ることができます。でも、ゴールが決まるとサポーターの声援は寒空に響き渡り、選手・サポーター一体の喜びとなり迫力は増していましたが、この応援ができるでとてもうれしかったです。選手がゴールに向かうプレーは凄いと思ったけど、それを止めるゴールキーパーはもっと凄いと思いました。そして、その中に喜んでいる自分もいました。

行きのバスで体調が今一だった子供(GKレッスン

正会員)

は、大好きなチームの観戦でしかも諦めていたお気に入り選手の途中出場で大喜びし、ゴールが決

ました瞬間、周囲のサポーターと一緒に立ち上がり両手を高々と上げ大声を出していました。

間近で見るトッププレーヤーの技術・スピード・気

迫、そして、サポーターの大声援には何度観てもただ感



イタリアで4年間を過ごし、ヨーロッパコーチングライセンスを取得した河村氏に日本とイタリアの育成環境の違いを本音で語ってもらつた。



UEFA ヨーロッパ公認コーチによる 「イタリアユースサッカー in とやま 2006」

開催日時 / 平成18年12月15~16日 場所 / 富山県岩瀬スポーツ公園健康スポーツドーム

河 村 優



1993年 広島県立広島観音高等学校 普通科卒業

1997年 神戸学院大学法学部 卒業

2005年 ペルージャ外国人大学 イタリア語学科 修了

LICENSE

取得ライセンス

◆ヨーロッパサッカー協会公認B級

◆イタリアサッカー協会公認 「Allenatore di base」

◆イタリアサッカー協会・オリンピック委員会公認 「Istruttore di scuola calcio」

◆日本サッカー協会公認B級コーチ

富山とイタリアの子供達の違い

『スポーツを楽しむ』

私がイタリアから日本へ帰ってきて日本の少年たちの真面目さと一生懸命さに改めて感心しました。イタリアの少年たちはおもしろくないことは関心を示さず、すぐに手を抜き集中力を切らす場面に出くわします。ですからコーチが常に目を光らせておかないといけないです…苦笑。しかし日本の少年たちは何事にもコーチのオーガナイズに対して実直に動き、懸命に取り組もうとします。ですから小さな頃からテクニックの習得は抜群に速く、ボールを使った敏捷性などが世界的に見ても高いと思うのです。

一方で弊害もあります。先ほどイタリアの少年たちはおもしろくないことは関心を示さないと述べました。それはトレーニングもゲームの一部として【スポーツを楽しむ】という概念がそこに存在しているからです。

彼らの場合コーチのオーガナイズ+自分たちのテクニックを磨くために得点競争などで競技相手と駆け引きを楽しめる。またそのために習得したテクニックを『どの場面、いつ、どのように?』という局面を考えながら発揮することが重要であるのを理解できているのです。

しかし日本の少年たちは指導者のいうことを真面目に捉えすぎて【プレイを楽しむ】という原点を忘れて練習に励むくらいがあります。そうなると結局サッカーで一番重要な相手との駆け引きがそこに存在しないまま技術を習得してしまうので、『いつ、どこで、どんなテクニックを発揮できるか?』ということを考えずにプレイしていることになるのです。

富山の少年たちはさらに勤勉さという地域の色が反映されている印象を受け、よく言えば「真面目」、ちがう言い方をすれば「自分で判断して敵よりも有利になる方法を知らない」ようにも見えました。

この問題点はコーチにも原因があります。イタリアの少年たちはおもしろくない練習はハッキリ『おもしろくない!』と言って取り組まないこともあります、苦笑。といった意味でコーチもおもしろくて、な

おかつ技術や戦術が習得できるトレーニングを考えないといけません。もちろんおもしろくなくともキックの基本動作フォームを安定させるためなどの静的動作の基礎練習も時には必要です。しかし子供たちも日々進化していくわけですからコーチも指導者という面だけでなくエンターテイナーとしての側面も持ち合わせていくことが日本においても今後は必要となるでしょう。

どのように?やはりサッカーは敵が存在するスポーツですからそこに競争原理が働いているわけです。日々の練習も敵が存在しないよりは存在している方がはるかに試合に近いシチュエーションになります。そういう意味で得点形式の練習などを増やして敵対動作などが入ってくる場面も増やしていくべき敵のプレッシャーに対してもきちんと判断できるプレイヤーが育つてくのではないでしょうか…。いやむしろ凄まじいスピードで進化している現代サッカーを考えた場合に静的動作の基礎練習も徐々に動的動作の中で上達させていくことを考えていく必要があると私は思います。

『ゴールへ』

次に感じたことはやはり【ゴールへの執着心の欠如】でしょうか?!これは何も富山の子供たちだけがそれに当てはまるわけではありません。日本全体の問題でもあります。

例えば私は3人vs2人の攻撃の練習を行ないました。瞬時に【ゴール前でDFラインに穴が開く】というシチュエーションでしたが、シュートレンジに入っても子供たちはドリブル突破を図ったり、味方へのパスコースをうかがっている場面に多く出くわしました。

サッカーの本来の目的はゴールを奪うために楽しむことです。そのゴールを奪うためにまずはゴールを意識させていくアドバイス、そして指導者の方々は1日必ずゴール付きのトレーニングメニューを考えていくことが最重要課題だと思います。

最近よく『イタリアと日本の決定的な違いって何ですか?』と質問されることがあります。そんな時私が思い出すイタリアの少年たちの光景です。

練習が開始される前にグラウンドに少年が1人あらわれた、さあ何をする?!無人ゴールに向かってシュート!次に2人目があらわれた、さあどうする?!ゴールに入ってGKとなり対決が始まった!!そしてさらに3人目が登場、さあどこへ行く?!サイドへ走り、クロスを上げ始めて3人でゴール前の対決を楽しみ始めた!!!最後にはゴール前でセットプレイみたいな形になって両チーム入り乱れての混戦となります!!!

日本人の子供たちも幼い頃はこんな光景を見ていた気がするのですが、段々と年齢を重ねることに…。練習が開始される前にグラウンドに少年が1人あらわれた、さあ何をする?!グラウンドの端でリフティング!次に2人目があらわれた、さあどうする?!対面して二人組みインサイドキックが始まった!!そしてさらに3人目が登場、さあどこへ行く?!3角形になって3人組のボール回し!!!最後に4人目が現れた、何が始まる?!3vs1!!!民族性の違いってどの年代から変化されていくのでしょうか…?この【ゴールを奪いたい!!!】という気持ちこそイタリアと日本だけではなく世界との決定的な違いだと思うのです。

本当に考えれば当たり前のことなのですが、ゴールを無意識に意識させるトレーニングメニューを考えるのは私もいつも苦労します。

このように毎日、私は振り返ります。
『今日のトレーニングは子供たちにとって楽しかったものか?』
『今日の行なったことは上手くいったのかな?』
『今日のアドバイスの仕方は正しかったかな?』
『今日自分がやったテーマを子供たちは吸収してくれたかな?』

『その年代に正しい負荷・適度な量・質に基づいて実行できたかな?』 まだまだ他にも考えられます。
サッカーって答えがないスポーツですから何が正解というものはありません。

しかし少なくとも子供たちの成長を見守ることもさることながら、自分自身を振り返ってみると必要があると私は考えます。

感受性が強い、多感な時期の子供たちを育てるゆえに私たち指導者もアンテナをあらゆる局面で張り巡らしていることが必要だと考えます。

最後になりましたが、今回イタリアサッカークリニックを依頼してくれたNPO法人富山スポーツコミュニケーションズ、そして後援で協力していただいた富山県サッカー協会の皆様に感謝すると共に、富山のサッカーが発展していくことを心から応援したいと思います。本当にありがとうございました。



Jリーグ観戦ツアーエクスペリエンス

NHK富山放送アナウンサー 三輪 洋雄

暖冬の余韻も感じさせない日曜日、3月11日のビッグスワンは、長い時間、冷たい風と降りしきる雪に包まれていた。しかし、スタジアムの雰囲気、観客はどうだろう。さすがに「寒くない！」という人はほとんどいないだろうが、寒さが吹き飛ぶような熱気だったのは間違いない。アウェーにもかかわらず大勢が詰めかけたレッズサポーター、後半終了間際の同点劇に湧いた新潟サポーター。その大観衆は、特定の世代・性別ではなく、老若男女、世代を問わないものだった。核家族化、嗜好の細分化が進んだ現代、このような世代

を超えた集まりはほとんど見かけなくなったのではないだろうか。

全ての事例が上手いくとは限らない。それでも、プロスポーツが、サッカーが地域に活気を与える—その理想が実現した光景を目の当たりにすれば、期待を抱かずにはいられない。



「JFA公認C級コーチ養成講習会を受講して」

富山大学教育学部三年 出原知哉

私は、昨年の春からU-12の子ども達を中心に指導をさせていただいている。小学校から大学まで、ずっと選手としてサッカーに関わってきましたが、指導者としての経験はなく、子ども達と接していく中、「本当に子ども達はうまくなっているだろうか、サッカーを楽しめているだろうか」と戸惑うこともあります。

私がこのような戸惑いを抱く理由の一つに、このTSCというクラブでは、小学校低学年から高学年までの子ども達が一緒に練習に取り組むという特殊な環境にあるということが挙げられます。もちろん、このことは決してデメリットだけではありません。工夫次第で子ども達の年齢によるギャップは埋められるし、違う学年の人とサッカーをするという体験の中で得られるものもあると思うからです。しかし、私は低学年の子ども達にも高学年の子ども達にも同じように練習メニューを与え、同じように指導していました。その結果として、先に述べたような戸惑いがあったのだと思います。

今回のC級コーチ養成講習会では、子ども達の発達発育に関する知識と、それに応じた指導の在り方を学びました。具体的に言うと、低学年の子ども達は、思考能力の発達が十分でないため、言語による説明は適しておらず、遊びを中心とした多面的な活動を通して身体の動かし方を習得することが大切だということ。また、高学年の子ども達は、ゴールデンエイジと呼ばれる、神経系や筋/骨格系の発達が著しく、言語による論理的思考ができる時期を迎えるため、この時期にサッカーに必要なあらゆる技術を習得させることは、子ども達のその後の完成期におけるピークパフォーマンスを向上させるためにも、非常に重要であるということ等です。

このことを踏まえて、自分のこれまでの指導を振り返ってみると、やはり子ども達の発達段階における特徴を理解していないかったり、これまで自分が選手として感覚的にやってきたことを、子ども達にも分かるように理論的に説明することができなかったりと、不適切な指導をしていましたと思われることがあります。しかし、今は、どのように改善していくか子ども達にとってより

良い指導ができるのかが分かることになりました。

今私が向き合っている子ども達が、将来どのようなサッカー人生を歩んでいくのかは分かりませんが、彼らがサッカー人生における岐路に立たされたとき、できるだけ多くの財産を残してあげられるように、これからも指導者としての勉強を積み重ねていきたいと思います。

「JFA公認C級コーチ養成講習会を受講して」

富山大学・医学部 田中修平

1月から約2ヶ月間、C級指導者講習会を受講させていただきました。これまでTSCでも主にU-12の子どもたちに指導していましたが、その指導内容は自身の選手としての経験による部分が殆どでした。しかし講習を受けて、練習メニューのバリエーションだけでなく、指導者としての立場から練習の意味も多少なりとも理解することができました。また子どもの成長過程に適した指導を行うことの必要性や、またそのときに何をしたらいいかということも学ぶことができ、とても有意義なものになりました。また指導実践の講習においては練習の流れ、話しかけ方、指導の方法などの具体的な指導方法の基礎を学びました。実際のプレーの中での指導だったのでわかりやすく非常に参考になりました。またこのとき他の講習生の指導実践を見ることもでき、自分の指導と照らし合わせてみて、欠けている部分などを再度確認することができました。またこの講習には指導経験の有無や、年齢、性別を問わず、多くの方たちが講習を受講しており、サッカーに多くの人が関わっているのだと改めて感じました。それと同時に、サッカーを知っている人が増えるとそれだけ責任も増えるということで気が引き締りました。

この講習を受けたといつても、それだけで指導能力があがるわけではないので、講習をきっかけにして、これからもTSCでの指導をはじめとするさまざまなことから学び、子どもたちがサッカーを続けていくに当たってよりよい土台を築く手助けができるように、またよりよいサッカー環境が提供できるように精進していきたいと思います。またこれからもよろしくお願いします。

INFORMATION

- ホームページリニューアル(1月スタート) URLは下記参照
- ホームページ委員会(日時:未定)
- 平成18年度TSC総会 日時:平成18年3月25日 18:00~ 場所:県民会館5F
- TSC経営検討委員会(4月)
- TSC定例理事会(前期) 第1回 4月21日(土) 場所:サンシップとやま
第2回 7月14日(土) 場所:未定
- TSC定期総会 日時:平成19年5月19日(土) 17:00~ 場所:県民会館6F
- Jリーグを目指すクラブ設立支援および県内プロスポーツ観戦増加支援策~
TSC主催「Jリーグ観戦ナビゲーションツアー」~前期分~
4月14日(土) アルビレックス新潟vsガンバ大阪(東北電力ピックスワン)
5月19日(土) アルビレックス新潟vs鹿島アントラーズ(東北電力ピックスワン)
- *後期も数回開催いたします。詳細はTSC事務局までお問い合わせ下さい。
- 富山県ITセンター・富山県ボランティア総合支援センター連携事業
「広報戦略パワーアップセミナー」4月7日~9月1日まで12回講座
TSC理事谷家氏、サッカーを知ろう会員八木氏受講

開設コース

分類	開設コース	対象	回数
競技指向	U-12 かなりプラスαレッスン	12歳以下	週1~2回
ステップアップ型	U-15 プラスワンスクール	中学生	月3回
アッパー型	U-18 スクール	高校生	週1~2回
本気でフットサル	高校生以上	週2回	
ゴールキーパー	特別レッスン	小学生以上	月2回
スーパーレフリースクール	中学生以上	月2回	
UP30 フューチャーズ	30歳前後以上	月2回	
お子様型	おんなの子のサッカー	女子	月3回
健康促進型	パワーヨガ教室	FREE	月4回
	サッカーを知ろう！ルール・戦術を観戦ナビから	大学生以上	月2回

参加申込: 氏名・電話番号・参加希望コースを添え直接TSCへお申ください。

携帯090-5176-0075 TEL/FAX 439-9277

Mission Vision

TSCのミッション

「クラブライフが心からだと暮らしを変える」をモットーに、「する・見る・話す・働く・支える」の喜びを感じることができ、自ら楽しみ、夢を育むことに貢献します。

TSCのビジョン

■Jリーグクラブづくりを地域クラブの立場から支援することによって、子供から大人まで県民に夢と感動を与えます。

夢を語れる子供、若年層・高齢層との交流の場を増やすため、クラブライフによる喜びをJリーグクラブ設立にも反映させ、県民全体の一体感を感じることによって、地域社会や家族間での共通話題を増やし、全世代に夢を育みます。

■スポーツによって「元気とやまと」を創造し、富山県を大きくアピールします。

富山の知名度を上げるために、スポーツ選手の育成やJリーグクラブ設立に寄与するとともに「元気で

健康なとやま」のイメージを全国に伝えます。県内で人材を育て活用することで全国的・世界的なニュースを発信します。

■生きかしいある高齢社会や青少年がのびのび育つ環境を提供します。

中・高齢者への生きがいと健康の推進に寄与します。また核家族化がすすむ中、異年齢集団での交流を増やし、子供の心の教育に寄与します。そして青少年が身近に「夢」を持ってスポーツ活動に取り組むことを可能にし、支えあしながら克服する素晴らしい体験ができるようにします。

■スポーツ文化の高揚に寄与します。

誰もが気軽にスポーツクラブを楽しめるよう地域住民の手でつくりあげることによってスポーツを常に携帯し、クラブライフを生活の一部とすることが可能となります。

■豊かな地域コミュニティの形成を図ります。

様々なスポーツコミュニティを形成することによって、県民の心地良いコミュニケーション活動の場、情報発信源として地域を活性化します。



事務局

〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203

Tel.Fax.076-439-9277

E-mail (pc) hi104fc@mbm.nifty.com

URL http://www.toyama-sc.net

Vol.2 発行日: 2007年4月1日
[発行日] 年3回 (11月・3月・7月)
[発行] NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ
[発行人] 佐伯仁史
[編集人] 赤壁逸朗
クラブライトが心からだと暮らしを変える